

自らの生活と結びつけて税金を考える

上山市立南小学校教諭 6 学年 太田 馨

実施年月日：平成30年10月及び平成31年1月 28名

1 実践計画・指導のねらい

自分たちの生活に大きくかかわっている「税金」について、どのようなかかわり方をしているのか、ということをお大切にしながら学習していく。子どもたちは、「税金」に対しては、「勝手にとられている」「何に活かされているのか分からない」というような、ネガティブなイメージを抱いていた。そこで、自分たちの身の回りにあるものを軸とし、税金の使われ方に目を向け、より身近な物として捉えられるように学習させたいと考えた。

2 単元構成・実際の指導状況

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・税金についての「イメージ」を整理する。	○「税金」に、どんなイメージをもっているかな？ ●消費税を取られている。 ●勝手にとられているイメージがある。
2	・租税教室を通して、税金とその使い道を知る。 【租税教室】	○税金にはどんな種類があるのだろうか。税がなくなるとどうなるだろう。 ●消費税の他にも、たばこやガソリンにも税金がかかっている。 ●税金がなくなると、生活で困ることがたくさん出てくる。 □税のビデオ「マリンとヤマト」 
3	・租税教室で学んだことをもとに、税金に対するイメージを話し合う。	○税金は、どのような場所に使われていましたか。 ●消防署や、水道などに使われている。 ●毎日の暮らしにかかわっている。 ○「税金」に、どんなイメージをもつようになりましたか？ ●最初は、何のためにとられているのか分からなかったけど、身近なところで使われていて、なくてはならないものだと感じた。
4	・私たちの暮らしの中で、誰が、どのようにして税金を使っているのかを考える。	○上山市二日町プラザについて、税金も使用されていることを知る。 ●いつも自分たちが使っているところにも税金が使われているんだな。 ●意外と、身近なところに税金が使われているんだな。
5	・誰が、どのようにして税金を使っているのかを知る。	○税金は、どのようにして使われるのだろうか。 ●調べてみると、市議会での話し合いを通じて、二日町プラザにお金を使おうとしていることが分かる。 ●上山をよりよくするために税金が使われている。 □上山市議会報 □わかりやすい上山市の予算書 

【指導のポイント】≪1時間目≫

「税金」というものに対して、子どもの素朴なイメージをもとに学習を展開していくために、このような学習を行った。

【指導のポイント】≪2時間目≫

・消費税以外にも、多くのものに税金がかかっているということに目を向けさせる。
・税金は何に使われていて、それがなくなるとどうなるか、と言うことに目を向けさせ、税金が自分たちの生活のために使われていることに目を向けさせる。

【指導のポイント】≪4時間目≫

「市民」「市役所」「市議会」の関係性に触れたうえで、「市民の思いを反映させるための代表としての議会」「そこでの話し合いで市民が払った税金の使い道が決まる」という視点で、税金の使われ方を押さえた考えた。

【指導のポイント】≪5時間目≫

・市議会会報や、「わかりやすい上山市の予算書」などを見せ、上山市の税金の使い道などが身近に感じられることを狙った。

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

◎初めのうちは、子どもたちは税金に対してネガティブなイメージしか抱いていなかったが、学習が進むにつれ、少しずつ「税金は暮らしのためにあるものだ」というような、ポジティブなイメージを抱くようになってきた。

◎身近なものを教材とすることで、少しでも「自分事」として税金を捉えられたように思う。

◆自ら調べるような活動を仕組むことがあまりできなかった。子どもがどのような視点で税金に対して関心をもち、疑問を抱くかをより吟味して資料を提示し、自ら興味をもって調べる活動を行えるようにしたい。そのようにして、子どもが自ら主体的に社会に参画できるようになると考えた。